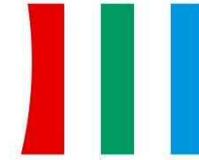


(資料)



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

# かわさき健幸福寿プロジェクト

## 要介護度等改善・維持評価事業について

第4期（令和元年7月1日～令和2年6月30日）

川崎市健康福祉局長寿社会部高齢者事業推進課

## 「したい」「やりたい」をあきらめない！かわさき健幸福寿プロジェクトとは？

**高齢者の自立支援に向けた質の高いケア**を評価する仕組みの構築を目指して平成26年度から開始されたプロジェクトです。「こんな生活を送りたい」というような目標を持っていただき、介護サービス事業所と一緒に、その達成に向け、要介護状態の「改善」や「維持」を目指して取り組んでください。

### 何を評価 するの？

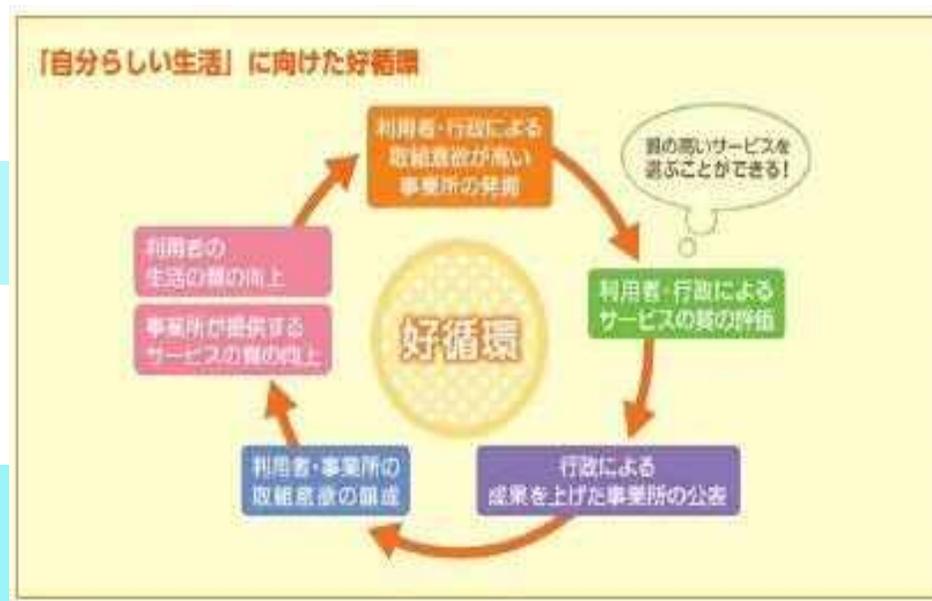
**「要介護度」「ADL」等**の改善・維持を評価対象とします。（評価指標）

### 参加したらどんな効果が あるの？

参加した皆様の**意欲向上**など、前向きなチャレンジを後押しすることができます。

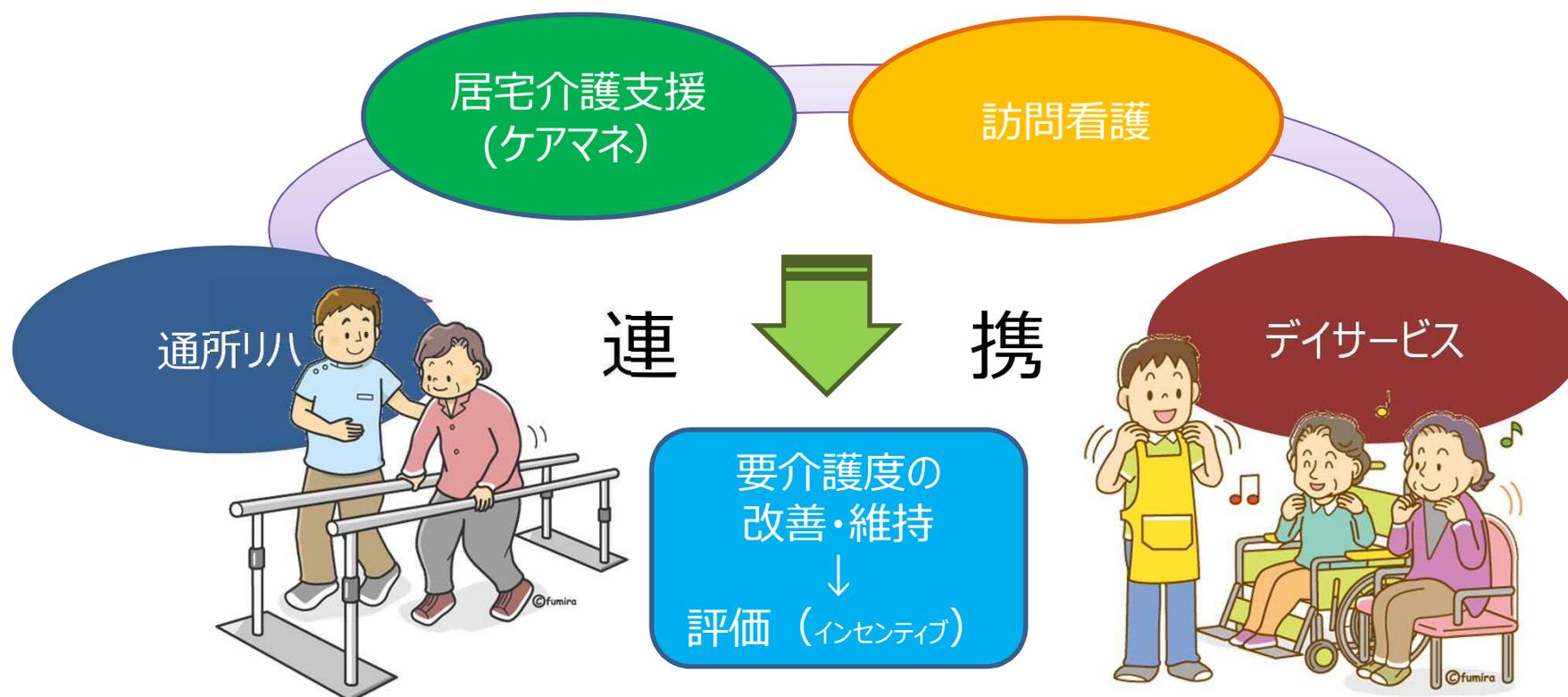
また、事業所の努力や工夫をしっかりと評価することによって、事業所のモチベーション向上やスキルアップによる**サービスの質の向上**が期待できます。

参加による取組の成果に対しては、**インセンティブ**という形で、参加者、事業所それぞれにお渡しし、更なる取組意欲の向上にお役立ていただいています。



## 『チームケア』による介護サービスの成果を評価！

居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）を中心とした、他（多）職種連携による相乗効果により、質の高いサービスの提供を行い、その成果について評価を行います。



特別養護老人ホームやグループホームにおいても同様に、配置される様々な職種の職員間連携によるチームケアを評価しています。

## ① 成果指標

### ◆ 要介護度

2019年7月1日時点と比べて、期間終了時点で**改善**した場合  
その他、改善に至らなかった場合であって、同一の要介護度を**一定期間を超えて維持**した場合

### ◆ ADL等（変化を測るため、認定調査票における能力評価の調査18項目を指標として用いる）

2019年7月1日時点と比べて、期間終了時点で**改善**した場合  
（ADL改善の評価は、直近の要介護認定時に、本市の認定調査を受けている方に限ります。）

## ② インセンティブ付与（予定）

- ◆ 報奨金 5万円程度（「要介護度の改善」又は「ADL等の一定以上の改善」があった場合）
- ◆ 市が主催するイベントにおける市長表彰
- ◆ 成果を上げたことを示す認証シールの交付（事業所向け）
- ◆ キーホルダーや参加の証（あかし）カードの交付（御利用者向け）
- ◆ 市の公式ウェブサイト等への掲載
- ◆ 事例検討会等における公表や事例集への掲載

# A D L 等の変化を測るための指標

調査項目	選択肢
寝返り	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない
起き上がり	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない
座位保持	1. できる 2. 自分の手で支えればできる 3. 支えてもらえればできる 4. できない
両足での立位保持	1. 支えなしでできる 2. 何か支えがあればできる 3. できない
歩行	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない
立ち上がり	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない
片足での立位	1. 支えなしでできる 2. 何か支えがあればできる 3. できない
視力	1. 普通(日常生活に支障がない) 2. 約1m離れた視力確認表の図が見える 3. 目の前に置いた視力確認表の図が見える 4. ほとんど見えない 5. 見えているのか判断不能
聴力	1. 普通 2. 普通の声がやっと聞き取れる 3. かなり大きな声なら何とか聞き取れる 4. ほとんど聞こえない 5. 聞こえているのか判断不能
えん下	1. できる 2. 見守り等 3. できない
意思の伝達	1. 調査対象者が意思を他者に伝達できる 2. ときどき伝達できる 3. ほとんど伝達できない 4. できない
毎日の日課を理解	1. できる 2. できない
生年月日や年齢を言う	1. できる 2. できない
短期記憶	1. できる 2. できない
自分の名前を言う	1. できる 2. できない
今の季節を理解する	1. できる 2. できない
場所の理解	1. できる 2. できない
日常の意思決定	1. できる(特別な場合でもできる) 2. 特別な場合を除いてできる 3. 日常的に困難 4. できない

18の調査項目の選択肢の番号について、取組開始時の合計から終了時の合計を差し引き、差がプラスであれば改善、ゼロであれば維持、マイナスであれば悪化とし、改善した場合にインセンティブを付与。なお、差が5以上の場合は、報奨金の付与を予定。

## ①対象者の要件

- ◆ プロジェクトの趣旨を踏まえ、要介護度等の改善に向けた意欲のある方
- ◆ 2019年7月1日時点で要介護1～5の認定を受けている方
- ◆ 川崎市の介護保険証をお持ちの方（川崎市の被保険者）
- ◆ その他、次のいずれにも該当しない方

- × 直近の要介護認定時と比較して、プロジェクト参加申請時点の心身状況に著しい改善が見られる方
- × 給付制限等の対象となっている方

## ②参加資格（事業所）

市内に所在する全ての介護保険指定事業所が対象となります。複数の介護サービス事業所がケアに関わっている場合、**居宅介護支援事業所が代表（申請者）**となってチームとしての参加申請をしていただきます。なお、以下の事業所は単独での申し込みが可能です。

### 単独申込が可能な事業所

- ◆ 介護老人福祉施設（地域密着型を含む。）、介護老人保健施設、介護療養型医療施設
- ◆ 特定施設入居者生活介護事業所、認知症高齢者グループホーム
- ◆ （看護）小規模多機能型居宅介護事業所（他サービスの給付管理も行う場合は、居宅介護支援事業所と同様の手続きを取ってください。）

# 第3期プロジェクトの取組状況について

## 参加利用者と事業所の数

参加利用者数 643名  
参加事業所数 363事業所  
(のべ1,050事業所)

要介護度分布一覧 (第3期プロジェクト開始時点)



参加者643名の  
要介護度の分布は  
左図のとおり。

第1・2期と同じく要  
介護度4の方がやや  
多い。

## ●利用者の属性と内訳について

### ◆性別別

男性：173名（26.9%）

女性：470名（73.1%）

### ◆年齢別

最も多いのは  
85~89歳の方  
→187名

最高齢は  
103歳の方  
(参加時点)



## 参加事業所の内訳について（3期比較）

サービス種別	第3期	第2期	第1期
訪問介護	48	40	25
訪問看護	19	25	12
訪問リハビリテーション	3	2	3
訪問入浴介護	3	0	4
居宅療養管理指導	5	12	5
通所介護	45	40	29
通所リハビリテーション	18	14	11
短期入所生活介護	11	9	11
短期入所療養介護	2	1	2
特定施設入居者生活介護	17	34	10
福祉用具貸与	22	20	15
居宅介護支援	61	55	54
介護老人福祉施設	21	29	18
介護老人保健施設	1	1	0
夜間対応型訪問介護	3	3	1
地域密着型通所介護	30	25	16
認知症対応型通所介護	3	4	9
小規模多機能型居宅介護	14	6	3
認知症対応型共同生活介護	32	16	14
地域密着型老人福祉施設入所者生活介護	0	2	3
看護小規模多機能型居宅介護	3	2	1
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	4	0
<b>総 計</b>	<b>363</b>	<b>344</b>	<b>246</b>

# 第2期プロジェクトの取組結果について

1. 第2期・利用者の参加状況 516名

2. 利用者の属性と内訳について

◆性別別

男性：128名（24.8%）

女性：388名（75.2%）

◆年齢別

最も多いのは  
80~84歳の方  
→128名  
(第1期は85~89歳)

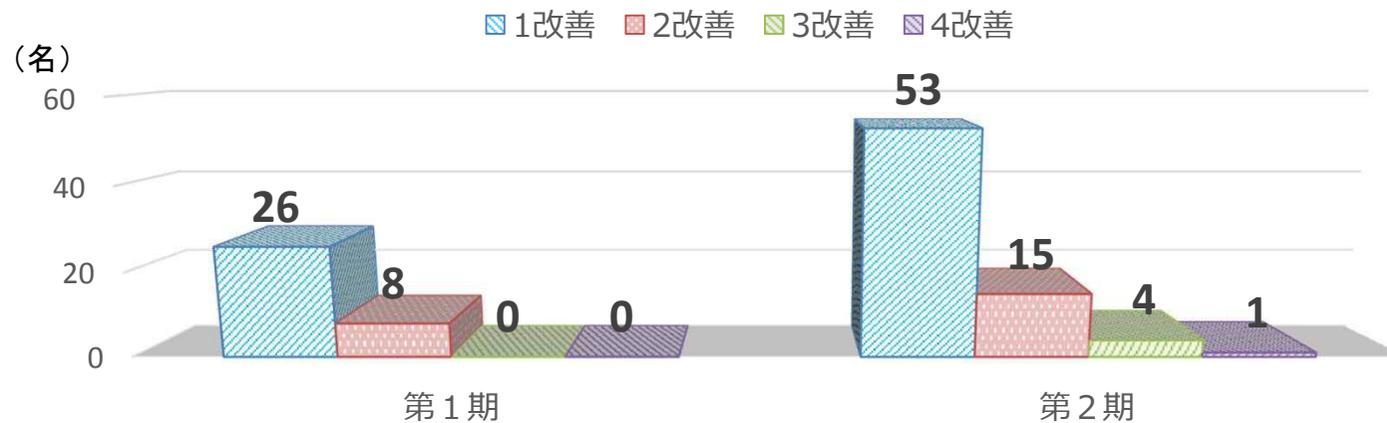
最高齢は  
103歳の方  
(参加時点)



## 3-1 利用者の介護度の変化

要介護度を改善された方・・・第2期：73名（14.1%）  
 【参考】第1期：34名（15.9%）

介護度の改善度合い



## 日常生活動作（ADL）の改善度合い

要介護度を改善された方	ADL				合計
	5ポイント以上改善	4～1ポイント以上改善	0ポイント	0ポイント未満	
第2期合計	21名	32名	8名	12名	73名
第1期合計	3名	17名	6名	8名	34名

### 4. 要介護度を維持された方・・・248名（48.1%）

要介護度を 維持された方	ADL				合計
	5ポイント以 上改善	4～1ポイン ト以上改善	0ポイント	0ポイント 未満	
要介護度 5	1名	5名	54名	12名	72名
要介護度 4	3名	3名	32名	6名	44名
要介護度 3	2名	8名	33名	7名	50名
要介護度 2	1名	3名	25名	8名	37名
要介護度 1	1名	9名	23名	12名	45名
<b>合計</b>	<b>8名</b>	<b>28名</b>	<b>167名</b>	<b>45名</b>	<b>248名</b>

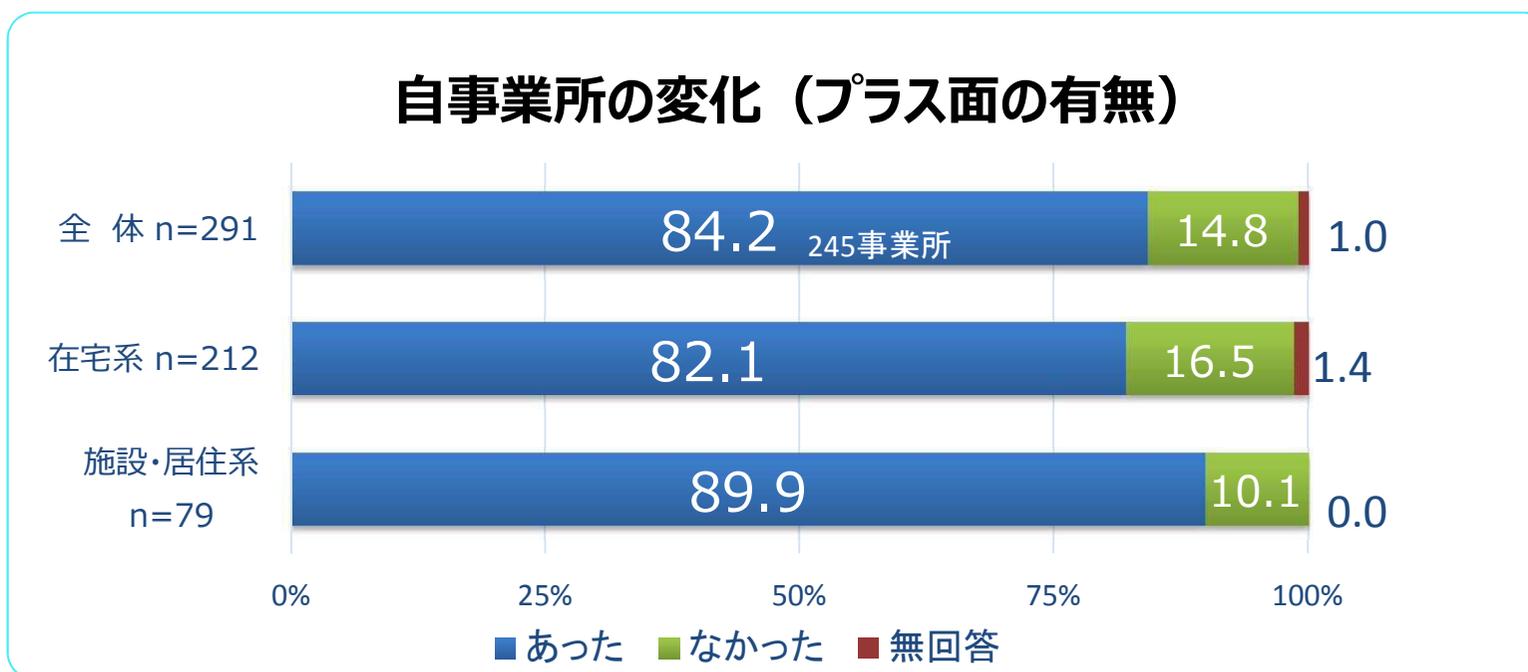
#### 要介護度を維持された方の詳細について

- 要介護度を維持された方は全参加者のうち約半数の248名（48.1%）であった。
- ADLの状態で見ると、248名中203名（81.9%）の方がADLを改善ないし維持（0ポイント以上）されていた。

# I 事業所の意識変化と具体的な行動の変化①

## ●事業所に与えた影響①

プロジェクトに参加したことによる事業所へのプラス面の影響



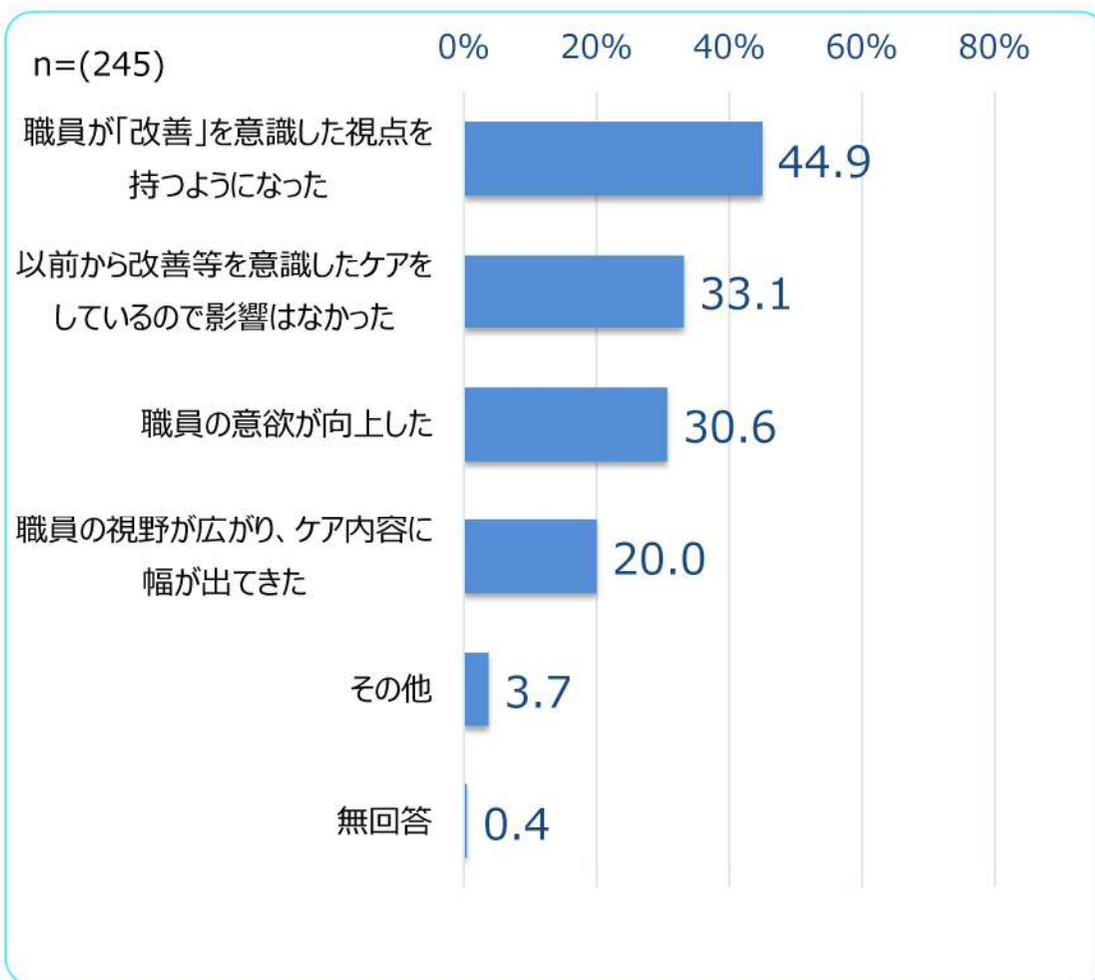
- プロジェクト参加を通じて80%を超える事業所に、何らかのプラス面の影響があったことを確認することができた。

# I 事業所の意識変化と具体的な行動の変化②

## ● 事業所に与えた影響②

前頁：プラス面があった245事業所が回答

自事業所のプラス面の変化内容（複数回答）



● 改善を意識する、意欲が向上する等、職員の行動変容に与えた影響は少なからずあった。

● 「影響はなかった」項目のポイントが第1期に比べ約6ポイント上昇している。（第1期27.4%）  
⇒プロジェクトが推進する意識の改革が根付き始めている。

● その他、御意見としては次のようなものがあった。

- ・他事業所との連携をより強く意識し、情報共有が密になった。
- ・様々な観点から取組める職員とそうでない職員との意識格差が広がってしまった。

# I 事業所の意識変化と具体的な行動の変化③

## ● 事業所から見た利用者・家族の意識変化について

### プロジェクト参加による利用者・家族へのプラス面の変化

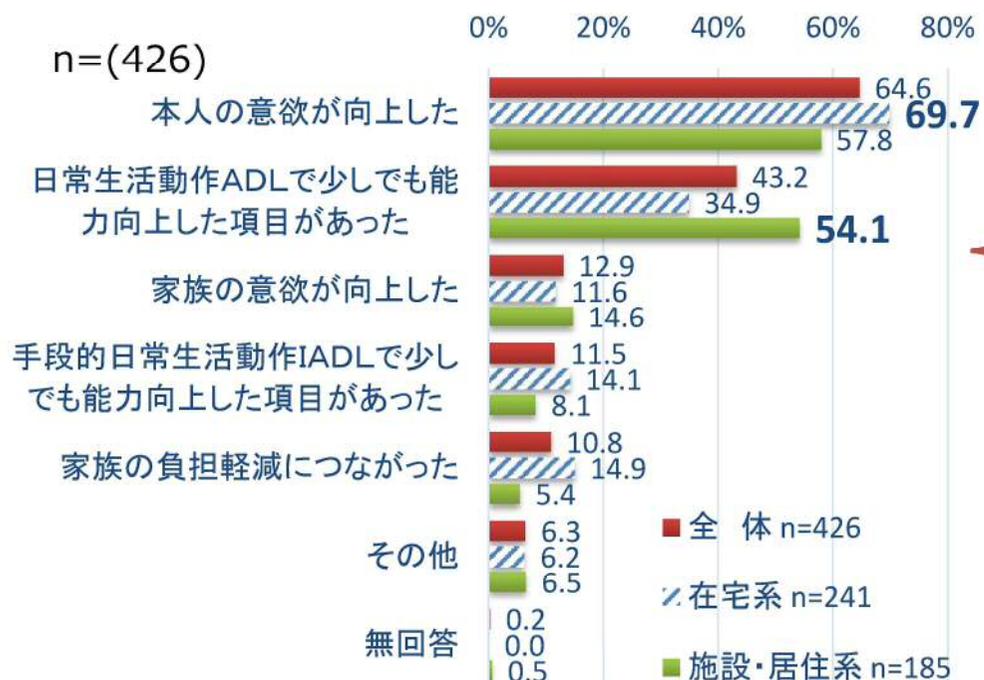


- 69.3% (426) の事業所でプロジェクト参加をきっかけとして、利用者・家族へのプラス面があったと評価している。

# I 事業所の意識変化と具体的な行動の変化④

## ●事業所から見た利用者・家族のプラス面の影響

### プラス面の内容（複数回答）



### ADLの向上項目（内訳）



- プラス面があったと回答した事業所の6割超が、利用者本人の意欲向上を捉えている。
- 意欲向上は在宅系が、ADLの向上は施設・居住系の方がそれぞれポイントが高かった  
 （意欲⇒在 69.7 : 施 57.8） （ADL⇒在 34.9 : 施 54.1）
- 能力が低下しない、維持ができたことを評価する事業所の意見が多数出ていた。

1. **本プロジェクトはご参加いただいたご利用者様へもインセンティブを付与することが特徴です！  
表彰式はとてもメモリアルな機会になります！**
2. **多くの参加事業所より本プロジェクトに参加することでプラスの効果があったとの回答をいただいています！  
職員の“気づき・行動変化”が期待できます！**
3. **煩雑な手続きは一切ございません！**



皆様の御参加を  
心よりお待ちしております

様式1（第7条関係）

令和 年 月 日

川崎市長（宛て先）

「かわさき健幸福寿プロジェクト」要介護度等改善・維持評価事業への  
参加及び個人情報の提供に関する同意書

かわさき健幸福寿プロジェクトの趣旨

川崎市では、介護が必要になった方であっても、心身機能の改善に取り組むことで、また住み慣れた地域や自らが望む場所で暮らし続けられるようにすることを目的に、「かわさき健幸福寿プロジェクト」を実施しています。

このプロジェクトに参加していただくと、普段利用している介護サービス事業所が、あなた様や御家族の希望を踏まえて、要介護度や日常生活動作（寝返り、起き上がり、歩行など日常生活を営む上で行っている動作）の改善・維持に向けたサービスを提供し、市が一定期間後の効果を測定します。この結果は、介護保険制度の改善に向けた提言等としてとりまとめ、国に要望してまいります。

なお、事業実施にあたってご提供いただく個人情報の利用については、本プロジェクト以外の目的には使用しないとともに、その取扱いには万全をきたします。また、この事業に参加することで、特別な費用がかかることはありません。

上記説明文を読んで、「かわさき健幸福寿プロジェクト」への参加、及び川崎市が私の要介護認定情報、介護給付実績情報、介護保険被保険者資格情報を本プロジェクトの効果測定及び事業検証のために使用することに同意します。

令和 年 月 日

お名前 \_\_\_\_\_ 印

代筆者 \_\_\_\_\_ 印（本人との関係 \_\_\_\_\_）

介護が必要になっても…「したい」「やりたい」をあきらめない!介護サービス事業所とともに。



# かわさき健幸福寿プロジェクト

## 第3期表彰式 & 記念講演

日時

令和元年9月4日(水)

午後2時～午後4時(開場午後1時10分)

場所

高津市民館 大ホール(12階)

先着400名様

正午(12:00)より12階にて  
整理券を配布

第1部

福田紀彦市長挨拶、成果を上げた利用者・事業所の表彰式

第2部

記念講演 安藤和津さん

介護から学んだ大切なこと  
～認知症の母と過ごして～



予約不要

入場無料

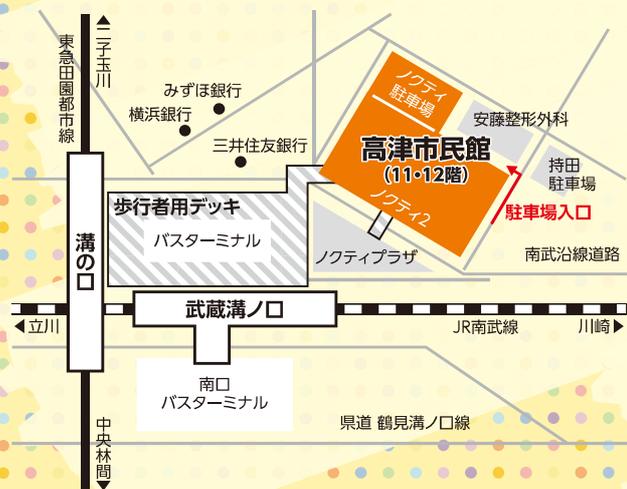
要約筆記

会場

高津市民館 大ホール  
川崎市高津区溝口1-4-1 ノクティ2 12階

会場へのアクセス

JR南武線「武蔵溝ノ口駅」から徒歩3分  
東急田園都市線「溝の口駅」から徒歩4分



# かわさき健幸福寿プロジェクト

要介護状態の改善・維持は、介護保険制度のサービスが目標とするものの一つです。介護が必要になっても高齢者の皆様の「したい」「やりたい」をあきらめないでほしいという願いを込めて平成26年4月から開始したのが「かわさき健幸福寿プロジェクト」です。

第1期から第3期を通じて御参加いただいた延1,300名を超える方からは、介護サービスに対する取組意欲が向上した等の喜びの声をいただいております。

いよいよ本年7月からは第4期の取組期間が始まりますので、さらに多くの皆様に御参加いただけるよう御協力をお願いします。



川崎市長  
福田 紀彦

## 第4期(令和元年7月~令和2年6月)かわさき健幸福寿プロジェクト

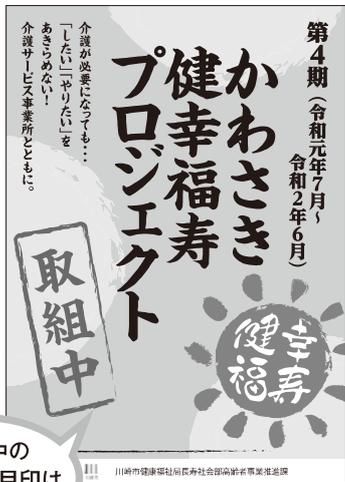
**参加者  
募集中!**

令和元年7月1日から令和2年6月30日までの1年間をサイクルとして、本プロジェクトに参加いただいた介護サービス事業所が、利用者の希望を踏まえ、要介護度や日常生活動作(ADL)の改善・維持に取り組んでいただき、一定の成果を上げた事業所(チーム)に対し、成果に応じたインセンティブを付与します。

### インセンティブの内容

市長表彰、報奨金、成果を上げたことを示す認証シール、川崎市公式ホームページ等への掲載など

このシールが貼ってあるところが、成果をあげた事業所です!



取組中の事業所の目印はコレ!



介護サービス利用者へのインセンティブ(第2期の作成例)



参加には事業所による所定の手続きが必要となります。

### 参加資格

- 要介護度等の改善・維持に向けた意欲がある方
  - 令和元年7月1日時点で要介護1~5の認定を受けている方
  - その他、次のいずれにも該当しない方
    - ・ 直近の要介護認定時と比較して、プロジェクト参加申請時点の心身状況に著しい改善が見られる方
    - ・ 給付制限等の対象となっている方
- ※その他詳しい要件はホームページをご覧ください。

参加ご希望の方は、介護サービス事業所へご相談ください。